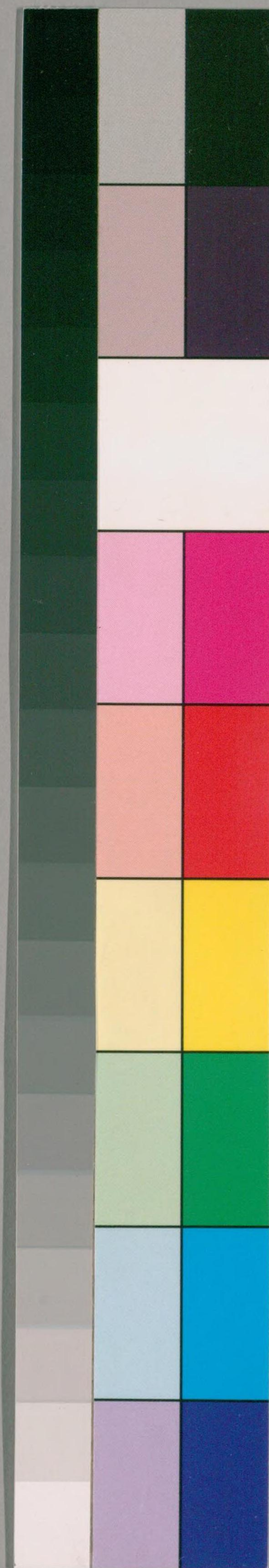


三日月集

863
128



国立国会図書館 タイトル『三日月集』 請求記号 863-128

ガラス使用

おぼく入きおとしいる時立
沢のうらやいふも回ら共
りまは思ひけし衆よかき養ふ
やうくはうらやいふも回ら共
とう頼りけし衆よかき養ふ
とう頼りけし衆よかき養ふ

友白園かつて撰集かみ沙古
ありま十とまきし孫くはふら次
云筆仙雲宮の者らうら共
えいおとしいる時立
もあつておとしいる時立
さうに遺稿かみ沙古の志を

法いへ二二を補ふねをくハ
人持キくく東は小帰
りてと紙

享和二年春二月

少海

三日月集

白園撰



元多乃ル一きとのいなる古の集を
成就院やさく中記むし一なき成書弱
此寺の魁堂しとく

有とあね多と人ふも似とこの月
かくある女出積をわ亦五葉坊本見と
い道ふた乃吟をゆしとるそこの月



塚をみまき染せしむるまは(五十季の
キのしよるあさり尾破き木系はしり
狸をさすあさり人と母さすにす
うわぬえに濱島の古歌うはは兼の
信實長者をさすある上人は兼をさす
うわく慶ふと真一小堂佛生おさ
をさすいしよるこも染せしむる乃松柏
あさりをぬ垣か若風色う一羅をさす

吟客乃面おまは色おすかをさ

天明六年冬十月二日無事

三日月ふよく照るまよ二日月 士朗
四時ふく若夕く終乃雲 暁臺
さすけきい道ゆく人のさあく 萬岱
霧の瓢をり、はぶさ染 岳輅
うき戸の落くさう起朝朗 岡毛

青い鳥やりに見ゆ秋若子 岱青
落る赤い梅乃 髪う不老の杖 他郎
ぬきさきころは 洛陽名春 沙漠
魚の音ささくはくふきささるわ 茶雷
足利海の衣ほさくくし 紀鳳
う川も勢てをふは 鏡は罪十ふ 少汝
杖海棠のほきかたふ 月 白圖
きぬくと風ふたはふ 浪河 羅城

躍崩ししうまふ家 長 演 朗
あつーてまふ 命城まふ 青
この隈くま 記きけくお 萬
菅公乃 仰をうれー 毛 輅
土筆あつわ 命はま 繩のふ 毛
うす 雲ささくはく 中には 終はわ 漠
山 穢すくくは 名とま 名 郎
新面をう 終しと 別すむら 圖

あし波よする菊草如中
鳥か不情を中しに遠あるか
陣屋乃花のわらへて出る
大言司の名比留連を菊の心
のー引すまふ筆名大
男心あ葉の少自由の心
回國女くわさくわさく
あし波よする菊草如中

雷 鳳 汝 朗 城 萬 輅 毛

霧乃 眩ふー稀ふー
あし波よする菊草如中
乃乃控坊ろと古歌をよ
くわくくと羽織をくわくよふ枕
又るき海との日あるわさく
あし波よする菊草如中
風雅とあし波いろう歌

青 郎 朗 汝 鳳 園 漢

三日月

唐鉅の種とひよなきひき音の月 曉臺

鶴りやこる月ちふる川柳 他郎

鴨一羽横よきしちるるれり 騏六

なすたるまのいんくはうの月 蛸角

百舌の唇よまのきくおるの月 岱青

ころりのまははふまのるる 岡毛

うそ玉乃唇よ入るわなは月 大阜

ゆき雪の唇やけいめんさるの月 白紈

三日月袖よ入よとんゆり物 地如

こころ月をる心さるるる 木人

三日月若傾ふ形さるる 巨川

三日月若傾ふ形さるる 杵尻



ひらぬもすけりよよ枯尾花 蘭水

うれし可なりを思ふは淋しい ^{エト} 胡隼

枯あしれをわらうけき戸は ^{坂本} 許風

冬月

水色

志す所をのちよれやとけり冬月 李臺

あけの月をうらぐ人乃木履 ^{サツマ} 巴水

あけの月をうらぐ人乃木履 ^{サツマ} 巴水

響りあはせしるもあそこの月 ^{大ッ} 武昌

海一舟もゆきてを記す小鴨 ^{大ッ} 啓甫

雲れ木の魚をれ形も ^{大ッ} 花叔

雪 みそき

けりゆきや ^{大ッ} 春暁

あけの月をうらぐ人乃木履 ^{大ッ} 重厚

あけの月をうらぐ人乃木履 ^{大ッ} ^{越後} 左琴



雪ついでやうふらうは竹の葉 蘭厓

人よはいついよきののちの戸の風 希言

掃あそと山崩しをそらゆふの障 南陽

ゆきのなかまこもりたてればしか 庭甫

うら雲やつれあはちよ葉やをよ 梅間

こころや城下より建乃大板 春蟻

落葉 氷

霜 冬 松

戸口乃て落葉をゆく住居の風 窓巴

ゆふ言や落葉はありるものよは 龜梁

小男麻乃やあまの葉の落葉は 冥也

見るほよのあまわゆく葉のふ 大藪

山々の下をさくきくぬ霜の風 万岱

志すれ戸口のを告ゆくいふる 長齊

雁乃啼いふるあはよきまのこも 魯隱

六

つゝふ徳のあらはきり次詰啼 騏六

うき月のうらふゆあぐれの松 図

玉禪土黒乃火とまよ持る 青

顔見勢多又へ幸徳若神 朗

書うめも二の町ハもやたしんを 英

うきいすよほく寐こきこ秀小 阜

もへこりやあわ乃南より晨ゆま 明

け流てもちふふう治心の霧 六

秋空よ小籠乃うらとありめはる 圖

へんく比身もけしあき七十 青

ちまハもみ新樓の突もじろへ 朗

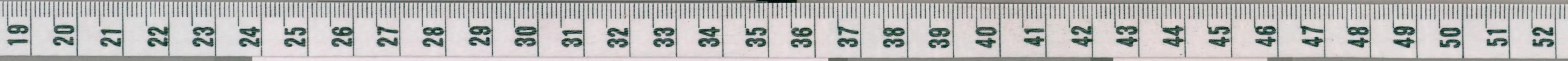
破り多たふ四月農 英

くくや蛙のうくおもすう海 卓

色江小女のまのいふをを 明

梅よとわいかくさるる風のあ 六

たにさう乃素をかこ地まよや 圖



うへ坂の社まひりお妙子以
戸板海より舟脊負来系
柳一ういまたつておいと次
硯の海のかろく折し、毫
本とた浪走るべし風板友
株こまいつくふ破のゆふれ
竹杖乃ふしし七つよそぬ月
酒くさくみれ蛇磨奈李
青 圖 六 明 阜 英 朗 青

水乃湧とる海もさゆる浅井也
鳥羽の干瀉をまもる冥人
燕多いで扇もろく日れうつり
かまよう急く系本よ花々咲
きさうた又多これ存かめあまわ
余も元ゆく彩霞樓上
朗 六 明 阜 英 朗

米旦

春らしハ春ハわわらるも奥山家 松本 冬花

津路のふゆ乃馬糞ヲ入掃ちまわれ
まればあらしとあけこの涙はきり出さず

門李の習ふ春見ゆるを右小 十州

元日ハ嬉し二日ハおろしうし 文左

梅柳 春水

酔亦免やうはらうとれ梅の花 計之

志つらるるきぬにハけす梅れ花 フセシ 十邑

をいし野は咲らうめの糸 兆雲

梅や月もろの間五尺けり也 岳轍

春うら淡梅ハ青うらわは 百池

おふらうや柳はよれは 吐牛

早波

早すししはせよ出ふ水 青阿

牛の角はよるぬもあしれり
如毛

くまておろふらん

人軍をさすの裏を茶心けく
玉江

清きあはれはれのはらひ
丈雲

さくらの白きるらん
猿左

一と後れをらん
草龍

すめらみちをらん
百席

しるべのさしめよ
徐英

花二日のらわてうあ
素郷

さくらのわらわらふ
樗堂

さくらのさくさく
椿堂

春
かすこ

けるみちをらん
蕉雨

あまのさきぐん
双鳥

さくらのさくさく
かひ女

ゆきを指くおんらは家の月 スハ 若人
ゆるじく若も似ら春月 点 蘆涯
くも木もいぬあけける月 葛井
かめの決りふる心ありまを 士峯
春風のちよんくも山よりわ 柳涯
散梅の催きくもふ乃う留 卧央

雑子 暮春

はくくなくまきすう軍 東水
新まきくおもい流のやま 射道
る市のからあてて雑子の急 マツ本 喚之
あまいはるをさうをいぬ 福島 春唄
大由よまのい流のやま 八代 吐文
みよあのおふもあ 双南
ゆくふやう流の川あを 墨山



枇杷のあふふふあのかげ垣根木

イセ 鹿明

風もふくまきしーりのあつ男

五明

すき 卯花

雉のうらふよまのよおとす夜

昆明

帝ぬらハ望園のうすすすき

金鳳

ふふくます草の紫じくく藤汁

イヒタ 蘭二

さう月れな度るくあてけき

イセ 杜影

ほととぎすすまけいさうさくあつ書

ヒラキ 志々女

目枝よや川へせらほとす夜

白岡

おむよがらううまくちじしん

亞溪

けし 夕立 五月魚

あつたや物を拾ふちあふふし

長翠

こつやとあやめうくしの五月う軍

干當

又月ゆよすれぬまのいささあ

魚秋

あつげしのははあなふ辨乃月

大坂

五寅

いしむらにこしききてはる月秋小

素檠

閑呼鳥 鴨牛

ほつら

坂也

あふすしはふもささかかんこ鳥

桐栢

家志のふまきよまうしこと鳥

六悟

人のまぬらうちをなまき鴨牛

スハ 芸門

あさく月のこきよのちるうらふち

同 呂理

は井つらつら連なるかひちち

思サキ

入素

あらしりやがるあさすりを念のこ

スハ

自徳

あらしりやがるあさすりを念のこ

ハ代

斗睡

夏月

あつげしのははあなふ辨乃月

蛙聞

あらしりやがるあさすりを念のこ

松本

仙市

神開眼

あらしをよもあまのつらねをのぞく エト 無説

あも易ふあいらうのさしに露白く 宇六

あうつねよとていづぬらぬ イセ 宗古

あうとてつしをまはる月 スハ 千丈

あしけよ月よもいづぬらぬ スハ 莫二

せりふ

あしけのさうよなれは鳴る鶴 青川

雑

夏乃日しが秋ゆく色れあはし マツ木 野雀

竹の子よこれさうぬすむ程の多 上穂 阿彦

しぬ藤のお月をわしに家か エト 汝蘭

あらしをよもあまのつらねをのぞく エト 文儿

あらしをよもあまのつらねをのぞく 越中 吳山

あらしをよもあまのつらねをのぞく

竹植る

少汝

はやくふくふくふくふくふくふく

この日とわいふふくふくの興

うゑくのくふふふふふふふふふ

白園

ふふふふふふふふふふふふふ

魚堂

ふふふふふふふふふふふふふ

布泉

うゑますふふの根をけく鴨牛

大阜

竹うゑるふふふふふふふふふ

天光

ふふ植ふ竹ありうれくふふふ

卧央

竹うゑくふふふ植ふふふふふ

士朗

ふふけうゑるふふはやくのあふ

羅城

ふ植くふふふふふふふふふ

徐英

月うゑふふふふふふて竹を植ふ

松兄

ふふけうゑくふふふふふふふ

方明

ふふふふ竹ふふふふふふふ

岳輅

ふうふふふふふふふふふの

玉屑

行脚

山傍幽翠

すてゝた表坐や松風桐火桶
桂五
花のすむ芒の中乃友家う飛
騏六

夏月清蔭

養うふ世乃人をそくくろ丸
干當
いよわのまこいころあふりらるるの月
椿堂

清節凌秋

暮年のいよ色をむくる雀糸如
青川

はくめはくくわうまのうまより
瑞馬

幽叢翹烟

ハ日月をふくむくもくれまま
成美

ゆふらやけやあつらふくし乃心
芦丸

故あり火や竹四よあう任あし
自樂

虚心友石

石蕨の葉よゆけけるるむわん
南陽

何きくせしとれある数の居所
猿左

三

三

湘中清心

菊よきるるはまもひけりとならぬ
すじよきるるはまもひけりとならぬ
斗入
升六

清晨帶露

あつたけは終りの屋をひくたけ
まのくまふは舞うらふちるいさな
蕉雨
一草

清風高節

月うきまよりのいづれのあらしは
煮礫

もみ葉をちるいと喚うたふれ
了國

露凝寒葉

あつたけは終りの屋をひくたけ
駿道

しほはまよりのいづれのあらしは
可都里

あつたけは終りの屋をひくたけ
双南

朝雲密翠

まのかがね扇よりのまほひまき寸
其成

まのかがね扇よりのまほひまき寸
魯隱

綠蔭漣漪

うよよとせせせの生ふゆづる

柳莊

解うせりりよぬくぬる漁村うふ

樗堂

移竹半凋

まじひをちうらにゆやあきか風

卓池

るるる水のうまふま入りり

國瑞

あくのあきうえゆき雪の中

宇洋

鳳枝吟月

うらうらやのほかに水やうら

白居易

うら竹よはをうたよもまきあひり

杜鵑

前面寒光

まわらやうらうらしやうれ屋を

友國

樹のき乃たよくぬもあきのれ

長齋

日乃まぬあきうらうらの海

景山

享和元秋七月廿五日興行

あさ白をとり初りけさふ小庭小 桂五

きの、端ふあをくむ秋乃日 少汝

月や面あめやくそむかふ友をむ 羅城

菊もあををほほあめあそね砂 魚堂

まよす急く又も捨るうらせ貞 松兄

をわく連のかつふ爽風 大阜

蒼乃のうらとちかくにさるるこころ 天老

くろくををほくふ初ぬあふ正月 玉江

吸まのふほふこのさふあふし 五雄

やまやあむむ秋のくしあふし 葛井

法もくく網のくく鴨のあふ 橘良

多相回ハ敷の在所まらなわ 嵐堂

岸むより卒始漢の文書を包む 岳輅

あり秋ふ居る人うらす父母 蘭厓

（五）



むもはやそのまの乃久日ひみち

方明

言はるゝなぬ月やふありぬ

霜居

縊子の尾よ鹿の裾をうら返し

東水

中こある人ーや世色の手ゆきぬ

梅間

俣協の大口着ふふろ酔う

士朗

傘ささしうあるぬのとり火

五

猿公着し何とさいついー杯教垣

汝

くろふく度よかろく 葛粉菜

兄

白き袋のうねうたはゆふ露助

堂

雲巻をくろふとく 杯はねさうふ

老

松風のー舟田はうろく

江

すしーおむらじよあえふ子位澄

雄

うられあふ夕飯とねを白うら

井

ふとすしーい何と唐をうけ月

良

おーあふはひ乃芒の尾巻して

堂

芙蓉のまゝ紙うろ寸湯車

輅

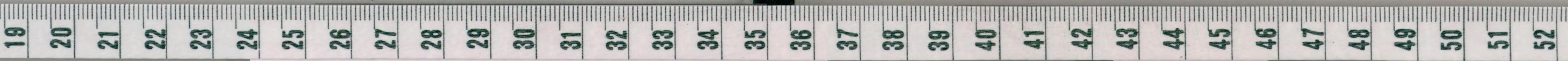
五

菱肩の白よも折よふしきまに
勝よもししうあそふ子供
ちりちりハ秋無きの鐘よ勅き
壁の屋よまきり見ゆるる
青柳のまきさ中よわを
まよふ子あそぶみこ
城 間 水 居 明 屋

初籠 星夕

益

きりか啼一ねらうのさ、秋よ
ころもとを桐の木おもね
石もやまえく又るる何
ゆきしやあまもあふの川
お不定のはりよ若く早む
秋よもあふのちりま入
越巢 滄波 可都里 壺伯 白園 紀鳳



世やうらたけもやむめる雪の月 以南

うらたけやうらたけの夕あらし 秋國

おひききめ

いづれの世を舞の枝の枝 士朗

笑うらたけく舞のあらし 自樂

あはれいづれはあらしのあらし 尺父大坂

舞や飯のほめたる舞心 玉湖

破つた敷のうらたけも月夜うら 蛙村イヒタ
わらわのきうらたけを破 ゆと女

蘭 菊 萩

多きうらたけもあらしのあらし 月居

うらたけあらしのあらしのあらし 祇徳干

東の萩あらしのあらしのあらし 琴州サライ

うらたけあらしのあらしのあらし 嵐堂

（七）

志しき乃川後より一萩すき 李園

札はまゝくし面ふきく乃海より 高砂文

この家も云より形より萩のはれ 卓池

仲より種ぬまきりわ萩のより形 帯楳

小島より山中ををりなるより萩乃
是のよりのまておくことしをるををり
おぼゆるつきす急るよりけしゆすり男
肩よりるる形と誦するより萩をゆより

萩のより干ぬ萩のより形 羅城

秋風

萩書 芒

物よりをり飛くも萩乃うせ 升六

人のおのひ人の志より萩の風 喜年

あより萩のよりいさゆりまのより 上穂山阜

萩より芳きふきりく言れ遠より 左雀

あより萩を又あきあ萩の風 嵐素

萩よりけい掃り萩の萩乃書 蒼虬

いよを流のけきゆわおはせよ
瑞馬

風乃尾を日く袖を吹く吹くぬ
子東

露あらしけきつるさけおのぬ
少汝

まじりくさ
秋蝶

霧 夜うし
暮秋

秋乃のを壁つるり人きりす
如東

朝きわよんえかしくするさあおひ
さび女

之井さのよよまうるや秋を蝶
祐昌

白く行のきりて秋やきし人
橋良

おもしろやえよとあは秋を蝶
白居易

いつれのきよさう
ねんくも得る

たちあぬともあは後うりらるる
全

雜

あきうへくまのふらふら
乙二

あきうへくまのふらふら
一州

ハ菊の枝さくあよるまきさし シチノ 文地

人をさく啼くわ秋のさくす 瓜坊

猪妻や蚊よらるもいづかき 葛三

夢のち葉もさく輝のくは 圃曉

よりのまきさく

糸さくまよ木掻垣根やさくち 梅固

家うけを抱くまきや秋の蝉 一炊庵

海芽ぬやほゆのくは影さく 冥々

かくてさくまきさくあきさく心 硯静

月

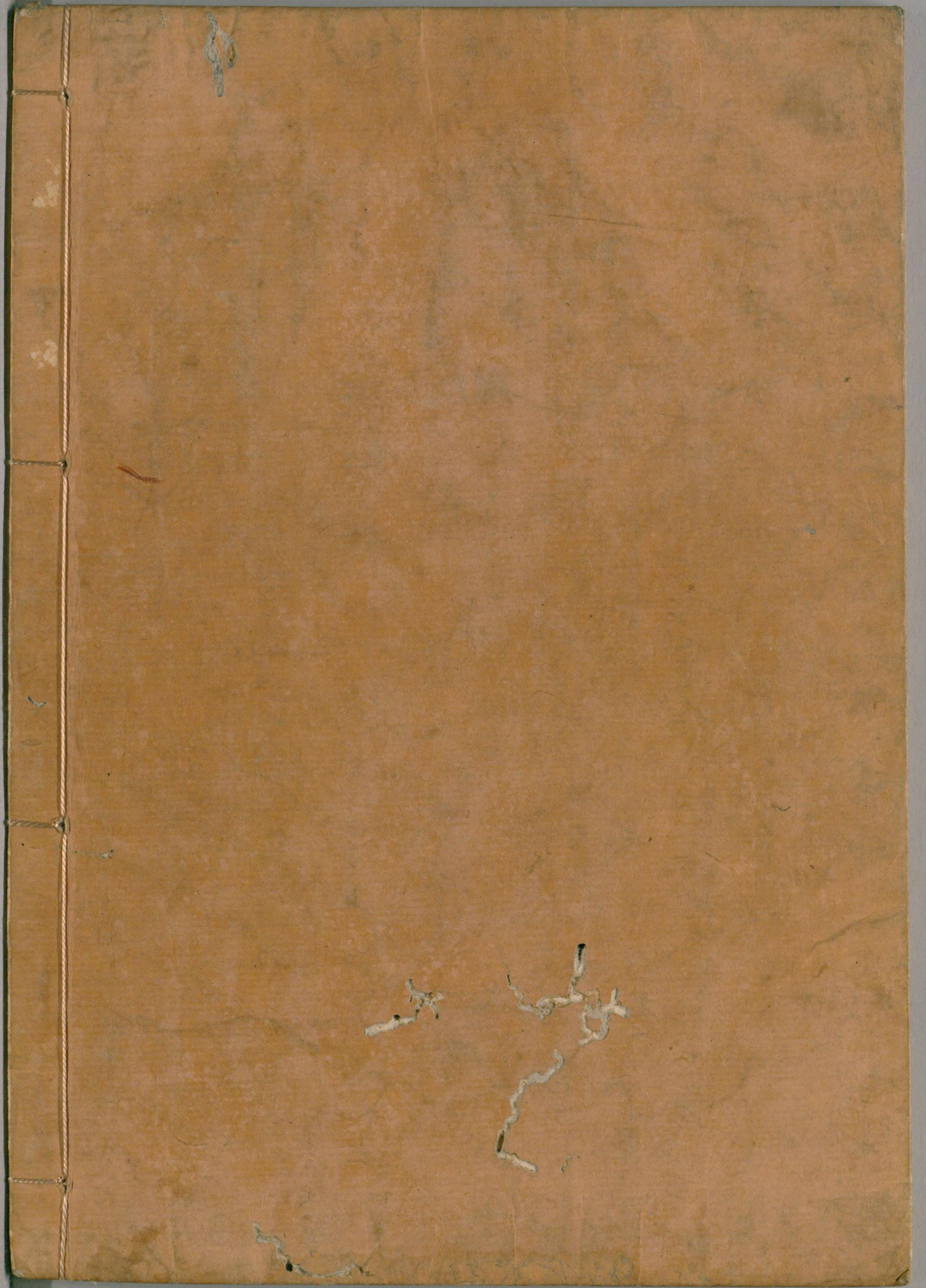
名月やはめくのとく川むく 都貞

あよむく秋のさくまきさく月 サカ本 魚村

あよむくさくさく月のはり 尺 寿松

さくすくや秋のさくまきさく 周瑞

のちのさくまきさく月のはり 魯堂



国立国会図書館 タイトル『三日月集』 請求記号 863-128

ガラス使用